



九月定例会（一日 通信句会）

兼題 「柿」「虫」

五十音順

特は特選 石田きよし選

月々の聲聴く句会秋扇

大崎石州

踏み込めばすつと消え入る虫時雨

太田黒幸風

虫探す少年の目の輝けり

大森康正

特 肩へ来て別れの沙汰や秋の蟬

竹内雲泉

青空や青柿しかと青々と

田中資凡

特 コロナ禍の野辺の送りや法師蟬

長池豆陽

螻蛄鳴くやひとり夕餉のサーロイン

藤田紀潮

齧り付き味はひ尽くす里の柿

宮下ひかる

特 柿食ふやころころ笑ふ妻のゐて

森田光彦

切り分けし白桃光る瑠璃の皿

山縣秀雄

落蟬に手指の触るや飛び跳ねて

吉岡誠山



向日葵の正眼のまま枯れにけり

石田きよし